

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04040

研究課題名(和文) ヴィネット・アンカリングによる国際比較方法の再検討：日米比較を例として

研究課題名(英文) A reconsideration on cross-cultural comparative method through vignettes anchoring

研究代表者

宮野 勝 (Miyano, Masaru)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：30166186

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)： 政治的関心・政府への信頼感などについて、日米で調査して比較した。その中で特に、質問紙調査の国際比較の方法について、あらためて検討した。

言語・文化が異なる社会の間で比較するために、調査に使う質問文作成と翻訳、回答スタイルの相違への対応、調査後の分析手法、などの点で問題が多く残っており、これら3点について方法の工夫をした。

工夫した方法は、教育・医療など多くの分野のアンケート調査に応用できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本と米国の人々の考え方の類似点や相違点を、質問紙調査を通じて、どのように比べられるか吟味しようとした。質問紙調査の国際比較方法の再検討は、他国との相互理解を深めることに役立ち、無用な誤解を防ぐことにつながる。

道半ばではあるが、工夫した方法は次の研究につながることを期待できる。また国内での調査や、教育・医療など多くの分野で使われている諸アンケート調査に応用でき、これらの有用性を高めることに役立つ。

研究成果の概要(英文)： We surveyed public opinion in Japan and the U.S.A. and compared perceptions such as political interest or government trust. We especially focused on methods for cross-cultural comparison.

For deliberate comparison between countries of different language and culture we tried some new ideas. They relates to questionnaire construction and translation, adjustment to the different response styles, and ways for analyzing survey. Our ideas can be used for questionnaire surveys in many fields like education and health care.

研究分野：社会科学

キーワード：ヴィネット ヴィネット・アンカリング 国際比較 日米比較 質問紙調査

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 現代社会において社会意識の国際比較研究の重要性は増している。しかし社会意識の国際比較においては、測定の比較可能性という大きな問題が解決されていない。この点について研究を進めようとした。

(2) 社会意識測定の国際比較可能性に関する主要な課題として3点を指摘した。第1は、調査に使う質問文と翻訳の問題である。とりわけ言語系が大きく異なる場合についての研究が十分ではない点である。第2は、自己評定に伴う問題である。「ヴィネット・アンカリング法」(以下、「ヴィネットA法」と略す)などが提案されてきたが、仮定の充足度の問題などが未解決である点である。第3は、調査後の分析手法の問題である。特に平均値の比較可能性を達成することは容易ではなく、十分には解決されていないとした。

### 2. 研究の目的

(1) 米国の研究者と議論しつつ、日米比較の質問紙調査を実施し、先の3点についての改良を試み、国際比較のための新しい技法を開発することを目的とした。

(2) 同時に、質問紙調査の分析から、日米の意識の異同をあらためて探ろうとした。また技法それ自体は、国内での比較や、教育や医療などの異なる分野での調査にも応用可能なものであることを目指した。

### 3. 研究の方法

(1) 米国と日本という言語・文化が大きく異なる社会間での社会意識の国際比較を、米国の研究者と研究協力して明らかにしようとした。

(2) 米国の研究者と議論しつつ、日米比較のための質問文の作成方法を見直した。また調査票の作成に際し、ヴィネットA法の改良のために新たなヴィネットの作り方を検討した。

(3) 完成した調査票を用い、2018年秋に調査会社に依頼して日本と米国とでWeb調査を実施した。米国調査は、予算も含めて米国の研究者が担当することになったため、予定回収ケース数を各国1000から2000に引き上げた。

(4) 日本については、2020年2月に、補充調査を実施した。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究の主な成果

国際比較のための調査票作りや翻訳に関して工夫した。

最初に全体の案を英語で作成し、次に具体的な質問文をまず日本語で書き下した。そして英語への翻訳の方法に注意しつつ、議論の末に、2018年夏に、工夫を織り込んだ調査票の日本語版・英語版を完成させた。

とりわけ、ヴィネットA法のためのヴィネットの作り方ならびに分析方法について新たな工夫を試みた。(工夫の詳細とその意義についての報告は、論文の完成を待って頂きたい。)

なお宮野(2017)では、ヴィネットの提示順の効果について考察し、提示順はヴィネット値やその各回答者のレンジへの効果はあるが、分析に与える影響は小さいと推測した。また、ランダム化して提示しない場合には、冒頭に中間的なヴィネットを提示することを推奨した。

2018年秋に実施した日米比較調査のデータは、ヴィネット法の検討のためもあり、限られた数の概念について多様な質問を含んでいる。多数の概念について少しずつ質問する調査と比べ、異なる意味での丁寧な日米比較調査となっている。

宮野(2019)では、国際比較でしばしば使われているMGCFA(多母集団確証的因子分析)モデルについて検討するため、日本のデータで男女間における「政治関心」の多寡の分析に試用した。

結論として、MGCFAの適用に際して、事前にまた事後的に、潜在変数の定義や観測変数群の吟味が、とりわけ重要であるとした。

宮野(2020)では、定量的データと定性的データの平行利用の確認を含め、質問紙調査における「政治家信頼」の自由回答を分析した。データの持つ特徴を掘り下げて捉えるため、伝統的な手作業での分析を試み、将来のソフトウェアによる分析の準備とした。

(2)国内外における位置づけ

日米の社会意識の研究において、限られた数の変数についての丁寧な比較研究は、独自の意義があると思われる。

また、国際比較の調査法や、ヴィネットの作り方、分析方法についての工夫は、有意義なものである可能性がある。

(3)今後の展望

現在、最初の共同論文を執筆しようとしている。

(4)得られた新たな知見

国際比較の方法について、ヴィネットの作成について、まだ色々と工夫の余地があることが明らかになった。ただし分析途中であり、知見についての最終的な結論は出せていない。

<引用文献>

宮野勝 2017「ヴィネット法における提示順の効果：政治的関心を例に」 中央大学文学部紀要 社会学・社会情報学 27: 63-72.

宮野勝 2019「構造方程式モデルによるグループ間比較方法の検討 政治的関心の男女差とMGCFA モデル」 『中央大学社会科学研究所年報』23号、1-21頁

宮野勝 2020「政治家に対する「信頼・不信」理由の探索 自由回答の分析から」 新原道信・宮野勝・鳴子博子編著『地球社会の複合的諸問題への応答の試み』第4章 中央大学出版部、159-190頁

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 宮野 勝	4. 巻 27
2. 論文標題 ヴィネット法における提示順の効果：政治的関心を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要 社会学・社会情報学	6. 最初と最後の頁 63-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮野 勝	4. 巻 21
2. 論文標題 「政治家」不信についての考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中央大学社会科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮野 勝	4. 巻 23
2. 論文標題 構造方程式モデルによるグループ間比較方法の検討 政治的関心の男女差と MGCFA モデル	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央大学社会科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 三船 毅（編）（担当：第5章「政治家」不信についての考察：測定方法を中心として）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 169（内135-169頁担当）
3. 書名 政治的空間における有権者・政党・政策	

1. 著者名 新原 道信、宮野 勝、鳴子 博子 （担当：第4章「政治家に対する「信頼・不信」理由の探索 自由回答の分析から」）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 444 （内159-190頁担当）
3. 書名 地球社会の複合的諸問題への応答の試み	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	安野 智子  (Yasuno Satoko)		
研究協力者	三船 毅  (Mihune Tsuyoshi)		